

# H30 「はばたく群馬の指導プラン」 推進校公開授業研究会



平成31年 1月24日(木)  
館林市立第七小学校

# 第七小学校

各学年1クラス + 特別支援学級2クラス 計8クラス

## 地域との交流（稲作）



30年以上続いている交流

## 特別支援学校との交流



## 教科担当制による体力の向上



○新体力テスト結果 全校児童の67%がA判定

## 新学習指導要領を見据えた図工の取組



○ 全国教育美術展 学校賞

## 新聞コンクールへの積極的な参加



○市内新聞コンクール 全クラス入賞

# 国語・算数の授業担当

(公開授業クラスのみ)



1 学年 国語・算数…担任

2 学年 国語…担任

算数…専科

3 学年 国語・算数…担任

4 学年 国語…担任

算数…専科

5 学年 国語…担任

算数…専科

6 学年 国語…4学年担任

算数…担任

1. 課題の明確化(実態把握)

前年度の校内研修からの課題や子どもの実態について分析

3. 重点課題

研修主題

4. 仮説(手立て)

2. 研修の目指す子どもの姿

検証

P 研修計画書

A 成果と課題の分析

実践的研究

C 検証

研修紀要作成

D 研究授業  
(一人一研究授業)

仮説検証研修

1. 現状の把握

困り感や悩みを出し合い、学校が抱えている問題【教師の指導の状況、子どもの姿・意識等】をすべての教師が共有する

ア、イ、ウ、エ、オ、カ

2. 課題とその原因の分析

様々な視点【学習指導要領・群馬県教員育成指標・学校教育の指針参照】から現状の背景を分析する

ア、イ、ウ、エ、オ、カ

3. 目標(1年後の目指す子どもの姿)を立て、手立てを焦点化

研修計画はA4両面1枚で、ポイントを押しさえて簡略化

資質向上研修

教師のニーズを踏まえて(オ、カ)

授業改善研修

共通する課題に絞り、具体的な手立てを決める(ア、イ、エ)(ウ)

日常的な研修

授業実践  
PDCA  
サイクル

チームによる  
授業実践

実践のまとめ

紀要作成負担減

OJT、メンター制の導入により効果的に指導力向上

指導力向上研修



# 指導力向上研修 (館林七小)

学習指導要領 学校教育目標 目指す子どもの姿・教師の姿 校長の経営方針

## 1 現状の把握 (教師の指導の状況、子どもの姿・意識等)

ア,対話的で深い学びになっていない。

## 2 課題とその原因の分析(現状の背景)

ア,学ぶ必要性のある「めあて」の設定ができていない。など

## 3. 目標

(目的意識をもち、対話的で深い学びのできる児童の育成)

手立て (「はばたく群馬の指導プラン」を活用した授業づくり)

はばプラ・学校教育の指針・  
群馬県教員育成指標  
(実践の手引きより)

手立てを修正

- ①読むより見て学ぶ
  - ②ベテランからのアドバイス
  - ③チームでレベルアップ
- +
- チェックリスト25の活用

管理職や学カコーディネーターによる参観と助言

授業実践  
PDCA  
サイクル

チームによる授業実践

師範授業、参観授業を計画的に実施(参観→研究会)

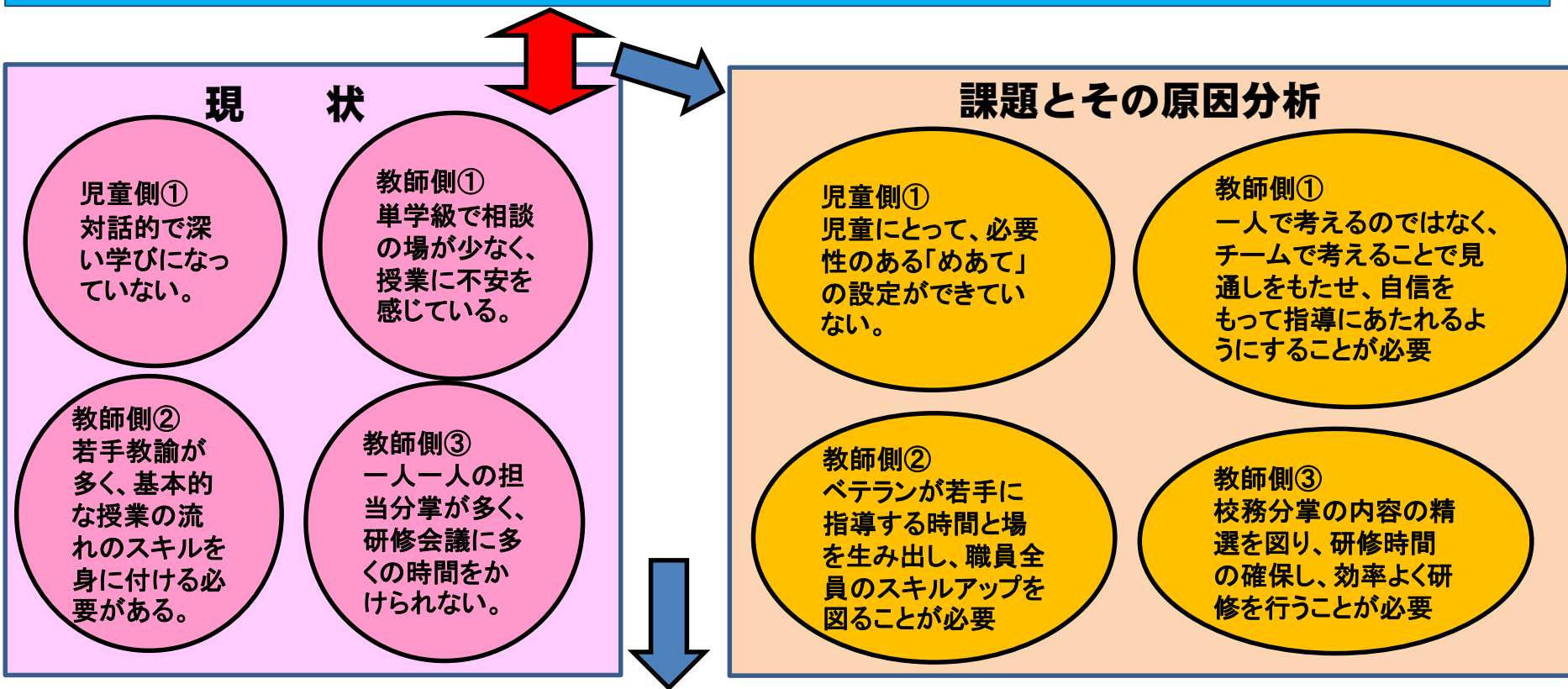
はばプラ・学校教育の指針・  
群馬県教員育成指標  
(実践集・実践の手引きより)

見えてきた成果・課題

一人一実践まとめ(A4、1枚)の報告書

# 1 研修主題、手立て設定までの流れ

第七小学校 学校教育目標:「進んで学び、心豊かで、心身ともにたくましい児童の育成」



研修主題「目的意識をもち、対話的で深い学びのできる児童の育成」

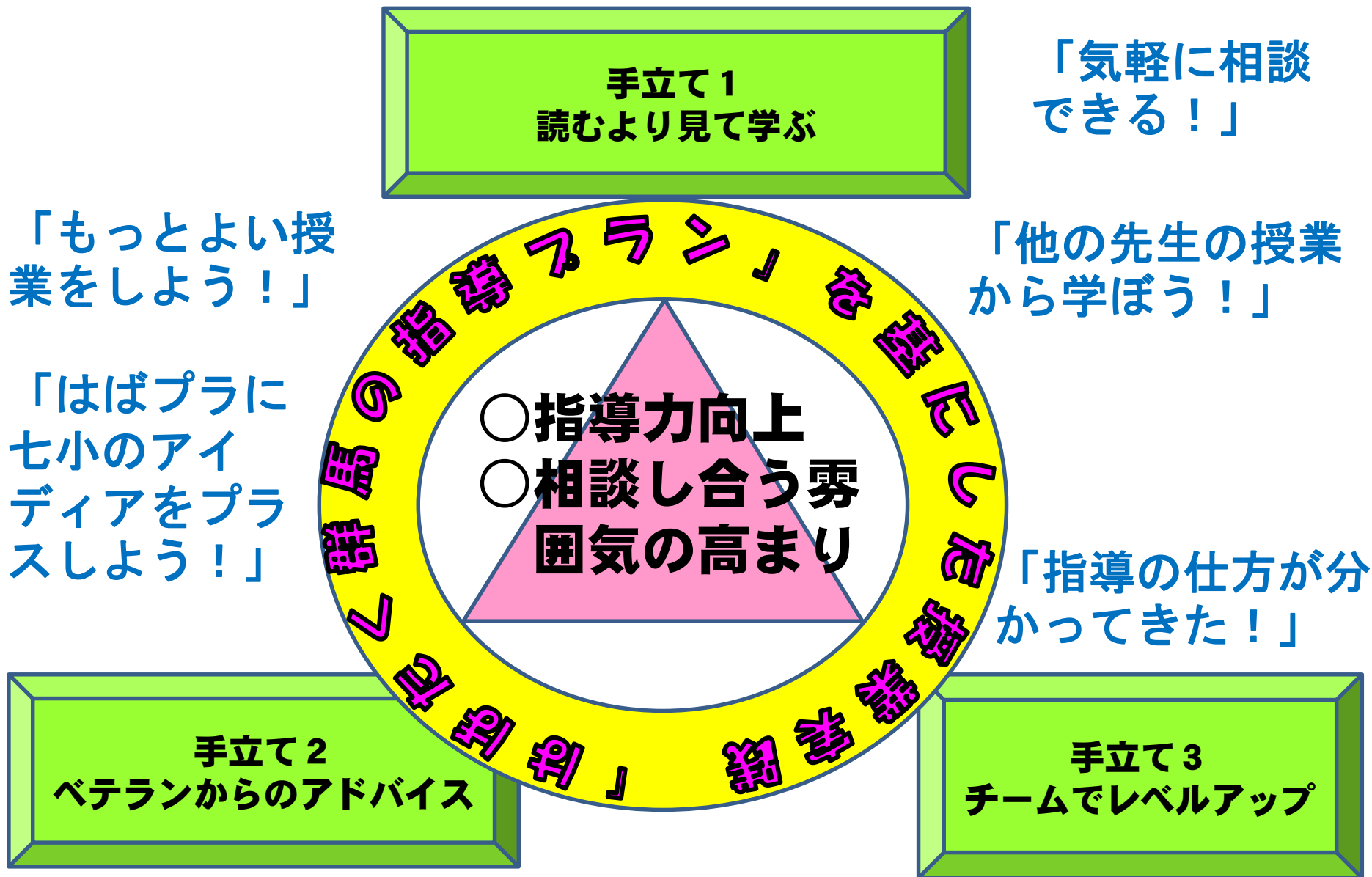
「はばたく群馬の指導プラン」を基に、教師全体の指導力を高めていく研修

手立て1  
読むより見て学ぶ

手立て2  
ベテランからのアドバイス

手立て3  
チームでレベルアップ

## 2 具体的な手立て→目指す教員の姿(意識)



### 3 実践内容

## 手立て1 読むより見て学ぶ ～授業の進め方の共通理解～

#### 4月の実践

- ① 「はばたく群馬の指導プラン」を基にした「授業の進め方」についての検討、説明会の開催
- ② 学力向上コーディネータによる公開授業
- ③ ビデオを使用した授業研究会→「授業の進め方」の修正→それぞれの教師が実践

算数の授業の進め方について	算数の授業の進め方について
① 算数の授業の進め方について	① 算数の授業の進め方について
② 算数の授業の進め方について	② 算数の授業の進め方について
③ 算数の授業の進め方について	③ 算数の授業の進め方について



① 「算数の授業の進め方」の共通理解

② 公開授業

③ ビデオを使用した授業研究会





## 手立て3

### チームで授業レベルアップ ～学期1回のブロック授業の実施～

- ① 「授業構想シート」の活用、「本時の展開」のみの指導案
- ② 全教員を2ブロックに分け、授業内容の検討→実践授業  
→授業の振り返り→全体への報告→次の授業実践に生かす

「めあて」の言葉の設定が難しいです。【若手】



明日、私の算数の時間導入を見に来られる？  
工夫してみるよ？【ベテラン】

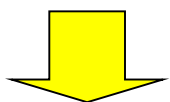
この場面において、先生がまとめすぎたと思う。もっと、子どもの言葉が拾えるとよかった。【ベテラン】



確かに時間がなかったので、急ぎすぎた気がします。【若手】

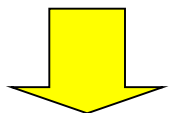
# 国語 単元の作り方

①身に付けさせたい資質・能力を明確にする。  
(学習指導要領・児童の実態・教材の特徴など)



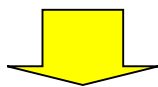
※ 指導事項配列表の活用

②「最適な言語活動」の設定  
「身に付けさせたい資質・能力」が達成できる言語活動

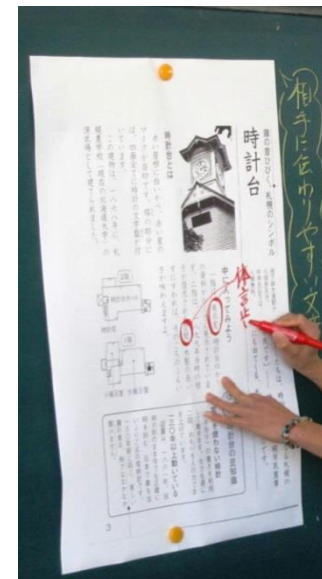


③単元構想

- ・ 教師の教材観
- ・ 各学年の発達段階
- ・ 児童の実態
- ・ 各指導過程での工夫



④指導案・実践



# 国語の授業構想シート

<研修を進めていく中で...>

課題、手立て(学習活動)、身に付けさせたいことを分かりやすく明記  
(本時において、「何を」「どのように」身に付けさせたいのかのイメージがもてるようなレベルの表現)

学習指導要領の解説の文言を参考に  
既習事項を活用する力を明記

児童の表現レベルで

構造的な板書(児童のつぶやき・ま  
とめに必要なキーワードを盛り込む)

授業の流れ (国語3、算数4)

<上段>

- ・児童の活動
- ・主な児童の反応  
(期待する反応を中心に)

・(下段)  
授業の流れに関する支援

教師  
児童の言葉活動 - 自分なりの答えをもち出す。

# 算数 単位時間の授業展開の確立

## ○「算数の授業の進め方」

- ・ まとめを意識したためあての設定  
→児童の気付き、発言を生かして
- ・ 結果の見通し  
方法の見通し（既習事項の活用）
- ・ 個別追究→個別支援 既習事項の確認  
指名計画 ペア活動
- ・ 全体共有→まとめに関わる大事な考え方を板書でちりばめておく
- ・ まとめ→自分の言葉で
- ・ 適応問題
- ・ 学習感想→学んだことの整理（一般化）  
よいと思った考え方  
次に生かしていきたいこと

第1小 算数の授業の進め方について

「はじめて算数の授業プラン」実践冊子108 ページ

学習の目標	授業上の留意点
① 問題を読み取る。 ② 既習内容と関連づけて理解するための、学習上の留意点と関連づけて（得意な学習方法を）活用する。児童が主体的に学習できるように、教師が適切な指導を行う。必要に応じて、教師が適切な指導を行う。	※「まとめ」を意識したためあての設定 (1) 問題文を読み取る。 (2) 何を求めているのかを読み取る。 問われていることと条件を整理し、重なりや関係のある「和」「差」などのところを、赤い線で囲む。 (3) 既習内容と関連づけて理解するための、学習上の留意点と関連づけて（得意な学習方法を）活用する。児童が主体的に学習できるように、教師が適切な指導を行う。必要に応じて、教師が適切な指導を行う。
③ 見直しを促す。 ④ 個別に指導。 ⑤ 全体共有。 ⑥ 比較、検討する。	・ 方法や結果についても、見直しを促す。 ・ 理解する際に必要な既習事項を、授業の展開に合わせて振り返る。（ノート、教科書、海苔紙、黒板コーナーなどを活用する） ・ 得意な学習方法を、得意なように活用する。 ※ペアやグループなどで学びと説明をしながら学びを深めようとする。 全児童を明確に「ねらいの達成」させる。 ※「はじめて算数の授業プラン」実践冊子108 ページ 41 参照 ・ 多様な学習方法による学習を促す。
⑦ 本時のまとめをする。児童から関心のある点や、疑問点などについて、児童から質問を受け付ける。	⑦ 本時のまとめをする。児童から関心のある点や、疑問点などについて、児童から質問を受け付ける。
⑧ 学習感想に寄り添う。 ・ ペアで感想を書かせる。 ・ 感想が口に出る。 ⑨ 今日の学習内容を記入する。	⑧ 学習感想に寄り添う。 ・ ペアで感想を書かせる。 ・ 感想が口に出る。 ⑨ 今日の学習内容を記入する。

めあての設定

交流活動の進め方

まとめ方



# 「チェックリスト25」の活用

# 教員の振り返り

4月

9月

12月

学習規律の  
確立が課題

導入を工夫し、児童が課題解決にむけて話し合えるように...

学習感想やまとめを、自分のことばで表現させたい

No.	項目	評価
8	授業の開始、導入を準備している。	A
9	楽しくわかりやすい授業を展開し、児童が主体的に授業を行っている。	A
10	児童に対して、受容的・共感的に対応している。	A
11	導入では、魅力ある教材や資料の提示により、意欲を引き出す工夫をしている。	A
12	児童がめあてや学習課題をしっかりともてるようにしている。	A
13	児童に予想や仮説を立てさせ、課題解決への見通しをもてるようにしている。	B
14	児童が考えたり活動したりする時間を十分に確保している。	B
15	目的をもって机間指導をし、一人一人の学習状況を把握している。	B
16	児童が学び合う場を設定し、考えを深めたり広げたりしている。	B
17	児童の多様な考えを引き出すような発問の工夫を行っている。	B
18	意図的な指名を行い、一人一人の考えを生かすようにしている。	B
19	ノートには、学習内容や自分の考えをわかりやすく整理するように指導している。	A
20	終末では、身に付けた力を実感できるように本時の学習を振り返らせている。	A
21	学習したことを日常生活と関連づけるように工夫している。	B
22	学習内容やねらいに応じて学習形態を工夫している。	B
23	ICT機器を効果的に活用し、楽しく学習に取り組めるようにしている。	B
24	ノートやワークシートにより、児童一人一人の理解の状況を把握している。	B
25	教師自身の授業評価を行い、次時の指導に役立てている。	A

2年目教員



第 週 ( 月 日 ~ 月 日 )	21 日	22 日	23 日	24 日	25 日	26 日	27 日	28 日	29 日	30 日	31 日
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											
21											
22											
23											
24											
25											

ゴールまでの流れを意識した授業作りが定着した！

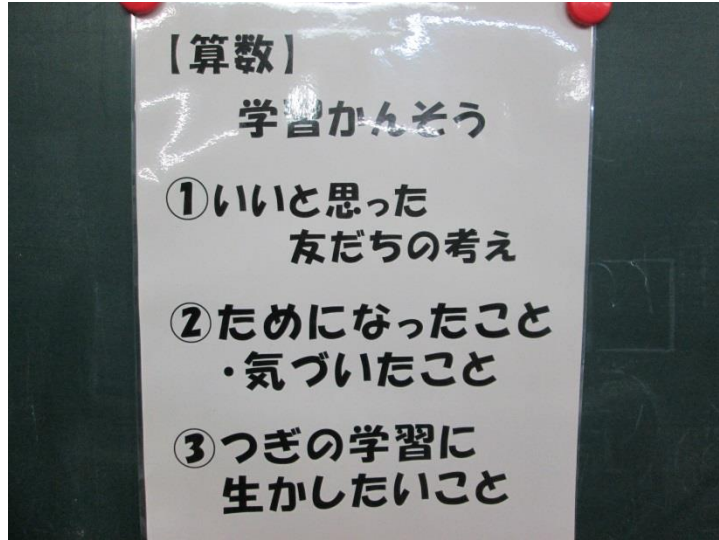
ベテラン教員

児童が、自分で考え、全体で練り上げていく力がついた！



# さらに… 実践を通して気付いたこと

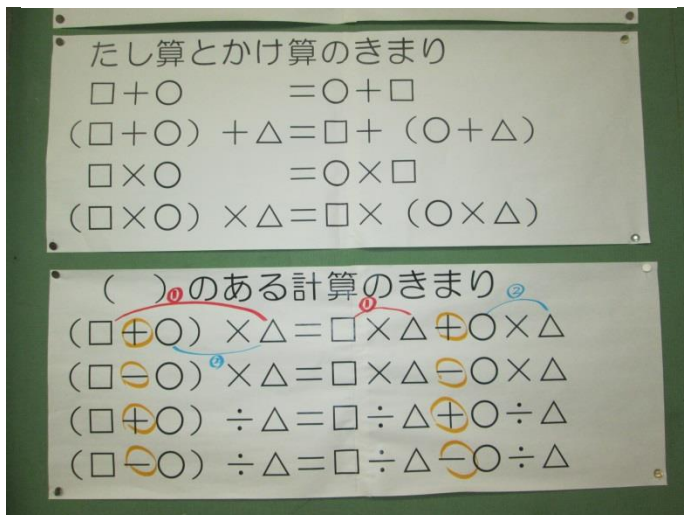
## 振り返り



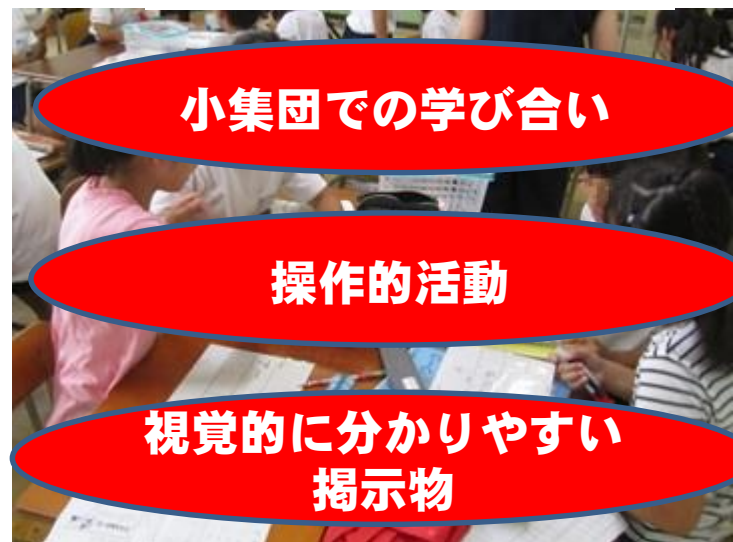
## 構造的な板書



## 既習事項の明確化



## 全員参加の授業



## 4 現段階の成果と課題

# 成 果

「はばプラ」の内容理解・実践

手立て1

手立て2

手立て3

◎4月当初に共通理解を図った結果、単元全体や単位時間の授業の進め方について、職員全体で同じイメージをもつことができ、5月以降の授業実践に生かすことができた。

◎「授業構想シート」を活用した学期3回の公開授業を行うことにより、「身に付けさせたい資質・能力」や「表れてほしい児童の意識」を意識しながら、授業の流れや板書の仕方を工夫する授業ができるようになってきた。また、授業研究会を行い、課題を見付けたり、その解決策を全体で共通理解することにより、若手が以前より自信をもって授業に取り組むことができている。

◎ブロック授業を行ったことにより、発問の仕方や授業の進め方だけでなく、教材観や学習のルールや学び方の指導なども学び合い、指導力の向上につなげることができた。

目的意識をもち、対話的で深い  
学びのできる児童の育成

教師の指導力向上

# 課題

本年度中に具体的な案(実践レベル)を作成し、来年度に提案していく

- ・「見て学ぶ」の範囲を広げる
- ・学期3回の公開授業の在り方(現在、管理職、学力向上コーディネーターしか参観できないことが多い)
- ・より有効なブロック授業の在り方

- ・互いに授業を見て学ぶシステム(空き時間の活用)
- ・場面を絞った参観
- ・資料の事前配布 視点を明確にした授業検討

- ・児童の実態に合わせた授業展開の工夫
- ・教科、教材の本質をつかんだ教材解釈・授業展開